

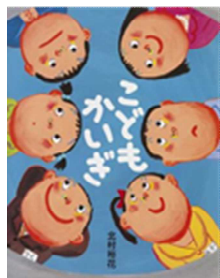
「パンダのシズカくん」

さく・え ジョン・J. ミューズ
やく 三木卓 (フレーベル館)

三きょうだいと出会ったパンダのシズカくん。それぞれの思いによりそった話をします。作者が考える東洋思想をパンダを通して語りかけた絵本です。

(T. T)

＜大人向け＞

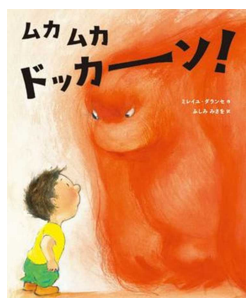


「こどもかいぎ」

作 北村裕花 (フレーベル館)

こどもたちの真剣な悩み事は、「日常的な親からの怒りをどうやったら回避できるか?」。こども同士の話し合いの中にハッとさせられるものがあるかもしれません。

(I. K)



「ムカムカ、ドッカーン！」

作 ミレイユ・ダランセ

訳 ふしみみさを

(パイ インターナショナル)

男の子の怒りが怪物となって現れ、大暴れする話です。怒りの感情を視覚化するという方法を知り、親子で話し合うきっかけとしてみませんか。

(K. Y0)

2024. 1 作成

紹介文後の()は執筆者です。

子どもに読んであげたいこの一冊

～みんな、成長する～

秋田県子ども読書支援センター支援員お薦めの本

＜およそ0～3歳＞



「おおきくなるの」

さく・え ほりうちせいichi

(福音館書店)

今はまだぶかぶかの帽子。でもいつかぴったりになる。だってわたし大きくなるの。種は花になり、毛虫も蝶になる。わたしはなにになろうかな。

(S. S)



「ママー、ポケット！」

作 デヴィッド・エズラ・シュタイン

訳 ふしみみさを (光村教育図書)

ママのポケットから飛び出したいカンガルーのジョーイ。でも誰かと出会うとポケットに逆もどり。それでもやっぱり出てみたい。やがて自分のような子どもとばったり！

(W. J)

＜およそ4～5歳向け＞



「なにしてるの？」

作 鈴木まもる (ポプラ社)

ぼくが「なにしてるの?」と聞くと、みんな「好きなこと」とこたえる。自分が好きなことをして、誰かが喜んでくれるのがうれしいんだって。

(W. J)



「大きくなるってこんなこと！」

ぶん ルース・クラウド
え ヘレン・オクセンバリー
やく 山口文生 (評論社)

草も木もお花も大きくなっていく。ヒヨコもコイヌも育っていく。ぼくは？小さなぼうやが母親にたずねます。

さあ、一緒にぼうやの成長をみていきましょう。(Y. Y)

〈およそ小学校高学年向け〉



「虫ガール」

文 ソフィア・スペンサー (虫ガール) /
マーガレット・マクナマラ

絵 ケラスコエット

訳 福本友美子 (岩崎書店)

いっぱい好きなことがあるソフィア。でも一番幸せなのは虫がいてくれるとき。いじめや偏見を乗り越え、たくさんの虫友達を見つけた11歳虫ガールの自伝絵本です。(T. M)

〈およそ小学校低学年向け〉



「はちうえはぼくにまかせて」

さく ジーン・ジオン
え マーガレット・ブロイ・グレாம்
やく もりひさし (ペンギン社)

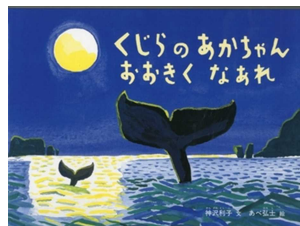
トミーが夏休みに始めたのは、近所の人たちのはちうえをあずかり世話する仕事。トミーははちうえの世話がじょうずなんです。夏休みがおわるころ、そのはちうえはどうなっているのでしょうか。(S. K)



「こはるとちはる」

作 白石一文 絵 北澤平祐
編 瀧井朝代 (岩崎書店)

こはるは、ちはると大のなかよし。好きなものが同じでいっしょにいと楽しい。ある日、好きな男の子まで同じと知り、気持ちやゆれ動く。考えに考えてたどり着いた答えは…。(K. YU)



「くじらのあかちゃんおおきくなあれ」

文 神沢利子 絵 あべ弘士
(福音館書店)

くじらのあかちゃんが満月の夜に生まれました。仲間と一緒に大きくなって、お月様に自慢のジャンプ。春には連れだって北の海へ。お月様の「わたしはいつもみえますよ。」の言葉が心に響きます。(O. K)

〈およそ中学生向け〉



「っぽい」

ぶん・え ピーター・レイノルズ

やく なかがわちひろ (主婦の友社)

自分のことだけでなく周りのことも観察理解し、物事の道理が分かってきた年ごろのあなた。でも、完璧を求めながらも自分らしい楽しい世界があることに気づかされる絵本です。(I. K)

